

集中授業における授業の組み立てについての一考察 —保育表現活動（造形系）の実践報告—

大沼 蘭*

A Study of How to assemble lessons in childcare expression activities —Practice report of the intensive class of artistic activities—

Ran ONUMA *

【要旨】

平成30年の保育所保育指針のうち「表現」は「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」とし、「生活や遊びの様々な体験を通して、イメージや感性が豊かになる」(p:173)ことをねらいの一つに掲げている。本稿では相模女子大学子ども教育学科で開講している「保育表現活動」の授業うち造形分野の授業に於いて集中授業という限られた条件の中で、上記のようなねらいを実体験として学修することを目標にした授業の組み立て方や課題の選定に至るまでの経緯を述べる。また、学生からのフィードバックを元に改善点を検討しながら今一度、保育者育成に関わる大学における造形の授業に求められるものは何かを考えたい。

キーワード：造形表現、授業の組み立て、能動的学修、グループワーク

1. はじめに一保育者としての造形活動

保育所保育指針（平成30年、厚生労働省）によれば表現と感性の領域において子どもが育むべきものとして大きく分けて3つの要素を掲げている。すなわち 1. 表現活動を通じた豊かな感性 2. 素材や表現手段の特性を生かしたり、工夫して活用したりして自身の心の動きを表現できること 3. 自分の好きな表現方法を見付け出すこと (p:275) の3点である。これらは保育対象年齢の子どもに対する指導内容として示されているものの小学校学習指導要領（文部科学省）図画工作中的の2内容—A 表現でも同義の内容が記載されており、中・高等学校での美術、さらには表現活動を職業とする作家活動においても

同じことが言えることから表現（造形）活動の根幹を形成するものであると考えられ、これらを行うには保育者自身も豊かな感性を持っていることが重要であろう。さらに保育者という立場においては自身が表現を発信出来るだけでなく子どもたちの豊かな感性を育むために イ) 自分の気持ちを一番適切に表わす方法を選ぶことができるよう ロ) 環境や多様な体験を出来る機会を整え ハ) 子ども心の動きに共感し表現し合う といった「引き出す」力も求められる。イ～ハの力を培うためにも子ども教育学科の学生に於いては先ずは授業を通して前述1～3を実体験したいと考えた。

* おおぬま らん 相模女子大学学芸学部子ども教育学科非常勤講師

2. 授業の組み立て一課題に求められること

保育表現活動は音楽・体育・美術（造形）の3つの表現分野をそれぞれ専門の教員が担当し、1分野につき5コマずつ授業を行う。また、集中授業であるため授業内容から到達目標の説明、実践、展開、まとめまで7時間半分の内容を全て1日で行わなくてはならない。朝9時の授業開始時に抱いた興味やモチベーションを丸一日保ち続けることは自身の将来のために学んでいるとは言え学生にとっても楽ではないだろう。また、通常授業のように次の授業まで日数を挟まないため学生にとっては授業内容を振り返ったり事前学習を行えないことに加え、造形活動に関して言えば絵の具や接着剤、粘土など乾燥に時間を有する素材は取り入れることが難しいという問題も考慮しなくてはならない。授業を準備するにあたり長時間学習によるマイナス面を軽減出来、前述のような条件を踏まえた上でより有意義なものにするために授業内容や展開、取り扱う課題をどのようなものにすれば良いかを考えてみた。

対象：卒業後、子どもに関わる職業に就くことを希望する大学3年生（1クラス25人程度）

授業内容を決めるにあたって考慮すること：

- ・学生はその殆どが卒業後保育士や幼稚園および小学校教諭など子どもたちと関わる環境に身を置くことを希望している
- ・学生は保育や教育の現場に就いた時に実際に応用出来ることを授業で学びたいと思っている（他授業での事前アンケートより）
- ・中学以降美術を選択していなかったり美大への進学も考えたことがあったりなど創作活動への興味や得手不得手に個人差がある

以上のような学生が将来子どもたちと造形活動を行う可能性を踏まえ、授業で行う課題に求められる要素を挙げてみた。

- ① これまでの造形活動における経験値や能力（デッサン力や観察力など）に左右されることなく制作や創作の楽しさを実体験出来るもの（**苦手意識の軽減・表現する喜びを実体験する**）
- ② 保育者として素材の特性や道具の使い方など造形活動に関する基礎的な知識や技術の習得が出来ること（**知識の応用**）
- ③ 学究的な造形表現というよりは実際の現場でそ

の経験を生かせるようなもの（**経験値を深める**）

- ④ 鑑賞や発表など他者の考えや意見を聞くことで相手の視点に立って物事を理解する機会を得られるもの（**共感性を育む**）
- ⑤ 学生が主体となり積極的な取り組みが望めるもの（**能動的な授業参加**）
- ⑥ 集中授業の条件を踏まえて乾燥など待ち時間の必要のないものにする



授業の目標

表現活動の楽しさや喜びを実体験し、
表現する楽しさを伝えられる人になる

3. 課題の考案—「ぜんぶ新聞紙のリクリエーション大会を企画・開催する」に決めるまで

まずは集中授業という1限から5限まで、1つの科目を1日で行う特殊な授業形態に於いて学生の興味やモチベーションを持続させるために考慮したい点を挙げる。

- 導入時に授業のねらいと到達目標を説明し、各自が能動的に参加出来るような環境作りを行う
 - 1日の流れを明確にする
 - 各時限の目標を明確にする
 - 考える（話し合う）時間と制作する時間、授業と休憩など時間の使い方にメリハリをつける
- ※ その他天候や当日の条件に左右されやすい内容は避ける（例）日光カメラや自然物を拾い集める活動など

次に「ぜんぶ新聞紙のリクリエーション大会を企画・開催する」を課題に選んだ理由について述べる。一般に保育における造形活動には平面や立体、その両方を組み合わせたものや身近な素材や自然物を応用したものなど、技法から素材まで実に様々なものがあるが前述の①～⑥を念頭におき、授業では新聞紙を使った造形遊びを行うことにした。授業の大まかな流れと新聞紙を主素材にした造形遊びという骨組みのみを教員側で設定し、実際にどのような遊びをどのように行うかは班ごとに分かれた（1クラス6班編成）クラス全員で話し合いながら進めることにした。授業内容の全てを教員が準備してしまうのではなく学生主導で行うことでより能動的に授業に参加することになり、結果的に授業内容への理解も深まった（後述「まとめのアンケート」より）ようである。新聞紙を主素材にした理由については授業

導入時に以下のような質問を投げかけて学生自身から答えを引き出している。この導入によって授業内容の把握と保育における表現（造形）活動に求められるものという意識を全員で共有する。

質問：

園、もしくは地域で親子参加型の造形イベントを行うことにするとします。子どもの人数はみなさんと同じ25人程度。年齢は3歳から6歳前後。子ども1人に親1人が付き添い、2組の親子に対し学生ボランティアが1人以上付くようにします。色々考えて今回は新聞紙を使った造形遊びを行うことにしました。

さて、新聞紙を選んだ理由は何だと思えますか？ 自分が企画する立場になった想定してその理由を考えて下さい。

学生の答え：

- ・身近で手に入れやすい素材だから（安価に手に入る）
- ・道具が要らない（手で破ける）
- ・紙のように使っても丸めても使えるから（平面と立体、どちらの造形表現も行える）
- ・危くない
- ・破いたり触ったり、感触を楽しめるから
- ・遊んだあとリサイクル出来るから

学生からはこちらが新聞紙を選んだ理由とほぼ同じ答えが出た。これは他の授業で培った知識や思考力が本授業に於いても上手く連動しているためと思われる。上記のような回答が出たところで課題「ぜんぶ新聞紙のリクリエーション大会を企画・開催する」を発表した。対象児童が大学生に代わり、保護者もいないなど条件は大きく異なるが今回学ぶのは子どもや保護者への対応ではなく造形表現に焦点を当てた模擬活動であることを伝える。新聞紙には先程意見を出し合った利点に加え「敗れる」という特性も持っている。破れたり壊れたりすることは通常「良くないこと」「望まないこと」と判断されるが今回はこの新聞紙の破れる性質を前向きに捉えることを提案した。例えば新聞紙で作ったサッカーボールは初めのうちは蹴った方向に上手く飛んで行くが何度も蹴っているうちに次第に破けたり凹んだりしてしまいには思ってもいない方向へ飛んだり全く飛

ばなくなって相手に簡単にカットされてしまうようになるだろう。この思い通りに行かないもどかしさや予想外のボールの動きを「だめだ」と捉えずに楽しむ体験をして欲しいと思うからだ。表現活動、特に造形に於いて失敗は付き物である。他の造形系の授業でも思い通りに描けないとすぐに紙を替えたりつまらないと判断して制作意欲の続かない学生をしばしば見かける。これは個人の中の正解のイメージが狭く正解以外のものは失敗と受け止めてしまうからではないかと想像している。保育所保育指針解説に記されている「保育士等のもつイメージを一方向的に押し付けたりするのではなく、子どものイメージの豊かさに関心をもって関わりそれを引き出していくようにすることが大切である」（「保育所保育指針解説」厚生労働省、平成30年p:277）の中の「保育士等のもつイメージ」は「保育士等のもつ価値観」とも言い換えられよう。本授業では上手く行かないことや望まない結果を排除するのではなく、価値観を柔軟にすることで捉え方も違って来ることを実体験したい。以下に授業の骨組みを示し、時限ごとに授業の活動を追った。

授業の骨組み

- 1 限目 クラス全員で行ってみたい「あそび」を班ごとに考える。1班1種目をプレゼンテーションした後、クラス投票で3種目に絞る
- 2 限目 2班1組で遊びに使う用具を制作する
- 3 限目 班ごとにユニフォーム作り
- 4 限目 リクリエーション大会（あそび）を行う
- 5 限目 まとめの時間 全員で振り返る

時限ごとの活動

1 限目：「あそび」を3つ決める

- ① 班ごとに話し合い全員で行なってみたい「あそび」の案を挙げて「競技案シート」に書き出す。あそびは運動・ゲーム、既存のもの・オリジナルのもの、どのようなものでも構わないものとした。
〈あそびの条件〉

- ・あそびに使う用具と班ごとに着るユニフォームは使用後リサイクルすることを考えて新聞紙とクラフトテープだけで作る（サインペンの使用は可）
- ・場所は体育館、もしくは遊戯室で行う
- ・競技時間は1試合3～5分を目安に考える。ただしカルタのようなあそびは1試合の勝負が着くまでとする

- ・1種目につき3試合×3種目、全9試合を行う（4限次）。これは特にオリジナルで考案したあそびの場合制作段階では適切な競技時間や使用コートの広さなどが想像し難い為、複数回試合をすることで修正を重ねられるようにする為である

● 実際に競技案として挙げたものの一例

- ◎輪投げ ◎チャンバラ ◎ボーリング（足で）
- ◎たたいてかぶってジャンケンポン
- ◎面子 ◎大玉ころがし ◎障がい物競争
- ◎ストラックアウト ◎新聞紙に乗るゲーム
- ◎誰が長く切れるか

- ② ①で書き出した案の中から1案に絞り、1回の試合で必要になる用具やその個数、試合時間やルールなどを出来るだけ具体的に考える。

● 実際に投票で決定したあそびの一例

- ◎新聞紙パズル ◎ストラックアウト風玉入れ
- ◎新聞紙兜ゲーム ◎一球入魂ゲーム ◎爆弾投げ込みゲーム ◎大輪くぐり

- 実際に学生たちが考案して競技案シートに記入したあそび方の一例

例) 競技名：新聞紙パズル

1回戦 各チーム1枚新聞紙

あそびかた：

- (1) チームに1枚新聞紙がある
- (2) 5秒間の中で新聞紙を破く
- (3) 破いた新聞紙をその場に置き、時計回りに移動する
- (4) 審判の合図でその場にある破かれた新聞紙を元に戻す（パズルを完成する）
- (5) 一番早く完成させたチームが勝利

この「新聞紙パズル」は上記のようなルールで行なったのは2試合までで、実際の試合では3試合目は発案チームが元々考えていた「引っ掛け」により

(2)以降は移動せず自分たちで破いた新聞紙を自分たちで元に戻さなくてははいけなかった。相手チームを手こずらせようと細かく破いたチームほど苦勞することになり大いに盛り上がった。

- ③ 各班の代表者が自分たちが考えた競技種目（あそび）のプレゼンテーションを行う。

- ④ ③で発表された6案の中から実際に遊んでみたい3種目を投票で決める。1人2票投票し、上位3案を実際にあそぶ競技として決定した。



班ごとにやってみたいあそびを考える

2 限目：2班1組で用具を作る

- ① 2班1組でグループになり、投票で決定したあそびに使用する用具を3試合分作る。

例) バドミントンの場合ラケット×2本とシャトル×1つが1試合で使う用具なので全部でラケット6本とシャトル3つを新聞紙とクラフトテープを使って工夫しながら作る。

- ② 早く作り終わったグループは終わっていないグループを手伝う

- ③ 用具作りの合間に各班の代表者がくじ引きを行い対戦相手を決める。



協力して用具を作る

3 限目：班ごとにユニフォームを作る

- ① 班ごとに戻ってユニフォームのデザインを考え「ユニフォームデザイン案」にデザイン画を描く。ユニフォームは ア) 全員同じもの イ) 形は同じだが色違いのもの ウ) 形も色も異なるがメンバーが全員揃うとチームのイメージが揃うもの、など大きく分けて3種類の傾向が見られた。

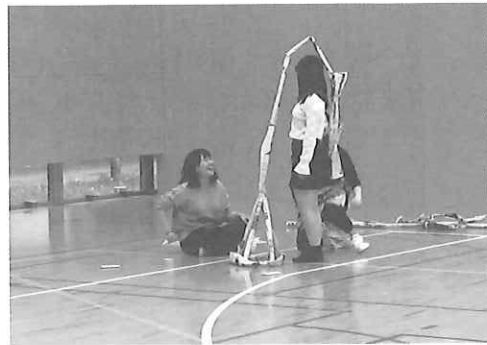
- ② 班ごとに話し合い、デザインイメージを確認し合ったら各自1着、自分の着る分のユニフォームを制作する。

4 限目：リクリエーション大会（あそび）を行う

- ① ユニフォームを着て全員で体育館もしくは遊戯



班ごとにユニフォームを作る



あそびの様子（写真は制限時間内で出来るだけ高い塔を作るあそび）

室に移動する。

- ② チームごとにユニフォームをデザインした理由（コンセプト）を発表し、写真撮影を行う。カウガールをイメージしてハットと上下対になったユニフォームを作った班、動物や恐竜など生き物を表現した班、花屋さんや八百屋さんなど職業をテーマにした班など様々なユニフォームが発表された。ウ)の例として「不思議の国のアリス」をテーマにした班ではアリスのようなワンピースや白うさぎ、トランプの兵隊などそれぞれ登場人物を思い起こさせるユニフォームをデザインした班が見られた。



ライオンをイメージしたユニフォーム

- ③ 実際に試合を行う前に用具を作った2班でデモンストレーションをしながら用具の使い方やルールの説明を行う。
- ④ 2限目③で決めておいた対戦表に従って競技を行った。
- 5限目：まとめの時間-ディスカッション
- ① 授業の振り返り。感想や改善点などを班で話し合い、班ごとに意見を発表した後、クラス全員でディスカッションを行った。

- ディスカッションで話し合われたこと
 - ・実際に子どもと行うときにはどんなことに気を付けたら良いか？
 - ・子どもと行うときにはどのようなサポートが必要か？
 - ・授業が始まるまでは長いと思っていたがみんなです話し合いながら進めたのであつという間だった
 - ・いつも子供を想定して活動を行うことが多いが今回は自分たちが対象だったのでより難しい形や服を作ることが出来て楽しかった
 - ・実際に遊んでみると考えていたことと違うことが起きるのでこうした活動を行う際はシミュレーションが大切だと思った
 - ・ユニフォームを作るだけ、新聞紙で遊ぶだけというように別々の活動として行なっても楽しめそう

② ①で聞いたクラスメイトの意見も参考にして各自「まとめの活動シート」に意見を述べる。シートを活用することで大勢の前で発言するのが苦手な学生の考えや意見も拾い上げられ、また文字にすることで学生自身が自分の考えを整理出来るという利点があった。

まとめの活動シート設問1：「ぜんぶ新聞紙のリクリエーション大会」を行った感想・意見・良かった点、もしくは改善点などについて自由に述べて下さい

- ・一緒に制作することで普段あまり話す機会が無い友達とも協力し合っって一体感が生まれた。
- ・今回は大学生が対象だったが実際に子どもと遊ぶときには怪我をしないように保育者が色々なケースを想定する事が大切だと思った。あそびも十分な広さを取って行う方が良かったと思った。(遊戯室

を使った学生)

- ・子どもと行うときには対象年齢によって必要なサポートが違うので年齢に応じたサポートが必要だと感じた。年齢によっては用具やユニフォームなどはある程度事前に作っておく必要があると思う。
- ・みんなでユニフォームを作るのが楽しかった。
- ・自分たちの提案したあそびはオリジナルのものだったが実際に試合をしてみたらみんな楽しんで遊んでくれて嬉しかった。
- ・ゲーム説明がうまく行かなくてグダグダになってしまった。前もって班で遊んでみるなどしてしっかりルールを決めておくことが大事だと感じた。

上記のように実際の保育現場で行うことを想定した意見や、表現の面白さを感じたり友達と協力することを楽しんだものなど殆どがポジティブな意見だった。ごく少数ではあるが中には「1限から5限の授業で試合もしたので疲れました」という意見も見られた。

まとめの活動シート設問2：この授業を受けて思ったこと、感じたことなどを自由に述べて下さい(授業に対する意見・要望でも結構です)。

- ・初めは新聞紙だけで本当に作れるのかなあと考えたけれど作って行くうちに重ねたり丸めたりすることで強度が変わることが分かり新聞紙という素材の知識が広がった。
- ・今回の遊びを応用して機会があれば実習でも行なってみたいと思った。
- ・別の班の人も言っていたが、ユニフォーム作りだけでも楽しいので幼児と活動する際はそれだけでも造形活動に応用できると思う。絵の具など使う素材を増やせばもっと色々なことが出来ると思う。

4. 授業を振り返って 子どもの教育に関わる者を育成する大学の造形の授業に求められるものとは

「造形（表現）活動を実体験として楽しむ」という大きな到達目標に加え、学生自身が次限ごとの細かな目標を意識して制作にあたったことで長時間の授業も中弛みすることなく進められたと思う。また今回、新聞紙という単一素材での造形や、他者と意見を交換しながら行うグループ制作が想定していた以上に学生の想像力や応用力を発揮する結果になった。これは子ども教育に関わる学生として普段から学術的に見たて遊びや共感性の重要性を学修して来た成果として今回のような実践式の課題でもこれまでの知識が上手く課題内容と連動したのではないかと考えている。授業の様子やまとめの活動シートの記述内容を総合的に判断して子どもの育成に関わる造形系の授業に於いては幅広い基礎的な造形知識の習得や表現する喜びの実体験は勿論、学生が学んだ学術的な知識を具体的に実践する場としての役割も兼ねられることが更に求められるであろう。

5. 今後の課題

授業での課題内容の取り上げ方を再考し、より学生が能動的に取り組めるような形を見つけたい。今回のように大きな骨組みのみを設定し、細かな目標は学生自身に考えさせたり、学生が自分の専門分野の延長としてより関連付け易い授業展開の仕方を探る必要も感じている。将来子どもの教育に関わる者を育成する大学の造形系授業に求められる要素を認識しつつ、引き続き表現することの面白さや他者の感じた心の動きを共有出来るような優れた人材の育成のために造形分野から何が出来るのかを考えて行きたい。